



カラーユニバーサルデザイン機構、略称 CUDO (クドー) は社会の色彩環境を多様な色覚を持つさまざまな人々に使いやすいものに改善してゆくことで、「人にやさしい社会づくり」をめざす NPO 法人です。

■ カラーユニバーサルデザインとは？

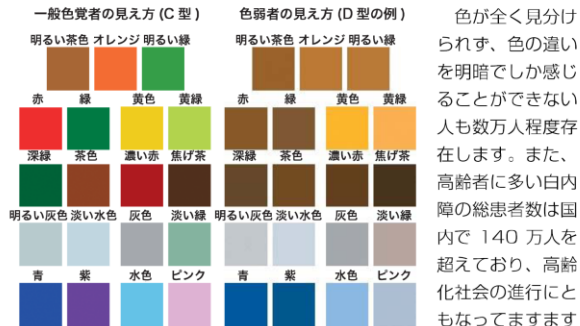
人間の色の感じ方は様々ではありません。遺伝子の違いやさまざまな目の疾患によって色の見え方が一般と異なる人が、合計で日本に 500 万人以上存在します。こうした多様な色覚に配慮して、なるべく全ての人に情報がきちんと伝わるように利用者側の視点に立つてつくられたデザインを、カラーユニバーサルデザインといいます。

■ カラーユニバーサルデザインの3つのポイント

- 出来るだけ多くの人に見分けやすい配色を選ぶ
- 色を見分けにくい人にも情報が伝わるようにする。
- 色の名前を用いたコミュニケーションを可能にする。

■ カラーユニバーサルデザインの対象者とは？

色の感じ方が一般と異なる人のなかで一番多いのが、いわゆる色弱者です(色覚異常・色盲・色弱・色覚障害・色覚特性とも称されます)。日本では男性の 20 人に 1 人、女性の 500 人に 1 人、日本全体では 300 万人以上いるとされています。世界では 2 億人を超える人数で、血液型が AB 型の男性の比率に匹敵します。これらの人は、視力(目の分解能)は普通と変わらず細かいものまで十分見えますが、一部の色の組み合わせについて、一般と見え方が異なります(下図)。



色が全く見分けられず、色の違いを明暗でしか感じることができない人も数万人程度存在します。また、高齢者に多い白内障の総患者数は国内で 140 万人を超えており、高齢化社会の進行に伴ってますます増える傾向にあります。さらに、網膜の疾患で視力が低下する、いわゆるロビジョンと呼ばれる人も数十万人存在します。これらの人には視力の低下に加え、色の見え方やコントラストに配慮が必要になります。

■ なぜカラーユニバーサルデザインが重要なのか？

21 世紀の現代社会において、色はますます重要な情報伝達手段になっています。カラー印刷の発達で、つい最近まで白黒が当たり前だった新聞・雑誌・一般書籍・教科書などが、みるみるカラーになりました。携帯電話や自動券売機などの操作画面、電光掲示板なども、みなカラー化しています。電気製品の動作表示ランプは、昔は点灯と消灯だけだったのが、いくつもの色に点灯して情報を伝え分けるのが当たり前になりました。公共施設や博物館は場所ごとにテーマカラーに色分けされ、カラフルな説明表示であふれています。鉄道の駅では各路線が色分けされて誘導表示され、路線図や時刻表はさまざまな色の線や文字で塗り分けられています。

ところがこれらの表示は一般の色覚の人の色の見え方だけを考慮して設計される場合が多いため、カラーになったために色弱者が情報を読み取れず、不便を感じるようになったケースが増えています。色弱者にとって、

社会は昔より暮らしにくくなっているのです。

■ カラーユニバーサルデザインは、色覚に関係なく全ての人に価値あるもの

カラーユニバーサルデザインは決して、「一部の色弱者のためだけの特殊なデザインで、一般の人にはむしろ見にくいもの」ではありません。色弱者に配慮してデザインするということは、色数が無秩序に増えがちな一貫性のない色彩設計を一から吟味しなおし、伝えたい情報の優先順位を考え、情報の受け手が感じる印象や心理を考慮しながらデザインをする、つまり創り手の感性でなく利用者の視点に立つて使いやすさを追求することです。これは結果として、一般の人にとっても見やすいものになります。

■ 色のバリアフリーは時代の潮流

従来は視覚関係のバリアフリーといえは、点字ブロックなど目がほとんど見えない人への配慮だけを意味していました。しかし色弱者に配慮した色のバリアフリーの重要性も、急速に認知されるようになってきました。現在では、国土交通省のバリアフリー法ガイドラインや、JIS アクセシビリティ規格、様々な自治体のガイドラインなどで、案内表示やサインについて色覚に配慮した配色とデザインの必要性が明記されています。

■ CUDO の活動内容

◆ カラーユニバーサルデザインのモニター・検証

CUDO では眼科の精密検診を受けた P 型強度/弱度・D 型強度/弱度の 4 タイプの色弱者をモニターとして登録しており、この人たちが製品や施設を当事者の目線からチェックして、コストや時間も勘案しながら最も現実的で効果的な改善法を提案します。新規の製品や施設では、開発・設計段階から作業に参加して、カラーユニバーサルデザインを達成するためのさまざまな助言や、試作デザインの検証作業を行っています。

◆ 認証マーク (CUD マーク) の発行

上記の作業でカラーユニバーサルデザインが実現できたと確認された場合、あるいは従来より大きく改善できたと認められた場合には、CUD マークを発行します。このマークを表示することで、その製品や施設が一定の基準に基づいたカラーユニバーサルデザインを達成していることを訴求できます。色弱の当事者によってカラーユニバーサルデザインの達成度評価を行っている第三者機関は、現在はこの CUD マークが唯一です。

◆ カラーユニバーサルデザインマネジメントシステム (CUDMS) の認証

継続的に発行される大量の印刷物や日々更新されるホームページ、新設後も随時デザイン替えが行われる事業所等では、長期にわたって恒常的にカラーユニバーサルデザインを維持する仕組みが必要になります。食品衛生や ISO9000 などで普及している品質保証システムと同様に、デザイン上の各工程での配慮システムを認証するのが CUDMS です。

◆ カラーユニバーサルデザインに関する相談・助言

カラーユニバーサルデザインに関する一般的な、または個別具体的な相談に応じ、助言を行います。デザインづくりの参考として意見が欲しいといったご要望にもお応えします。ガイドラインや規格の制定、問題点の検証などにも協力しています。

◆ カラーユニバーサルデザインの資料提供と普及啓発

人間の色覚に関する科学的知識や、それにもとづいた現在のカラーデザインの問題点とカラーユニバーサルデザイン化へのノウハウについて、参考となるさまざまな資料を作成して、出版やインターネット等を通じて提供するとともに、依頼に応じて研修やセミナーへ講師を派遣しています。

